

国鉄士幌線の文化遺産を活用したまちづくり

特定非営利活動法人ひがし大雪アーチ橋友の会

昭和62年の廃線以来、ひがし大雪の懐で静かに眠っていた士幌線のアーチ橋梁群は、平成9年の旧国鉄清算事業団の解散に伴い解体の危機を迎えました。この話を聞いて上士幌町民が中心となり保存会を結成し、アーチ橋の素晴らしさを伝えるべく、写真展、見学会等の保存活動を展開した結果、平成10年に上士幌町が34のアーチ橋と線路跡を取得する事になり、アーチ橋は解体の危機を免れることになりました。

その後、アーチ橋梁群と線路跡の利活用を考え実践していくことを目的として、平成11年に保存活動を行った町民が中心となって「ひがし大雪アーチ橋友の会」を立ち上げ、行政と協働しながら企画・行動力を発揮しながら活動を行っています。

当会の活動は指定管理者制度による上士幌町鉄道資料館の運営や、会報の発行、ホームページ等を活用した情報発信によるアーチ橋梁群のPR活動の他、橋梁の日常点検や補修費用を募る募金活動など、維持・保全面での活動も行っていきます。

これまでの地道な活動により、5つのアーチ橋と1つのトンネルが国の登録有形文化財に指定されている他、アーチ橋梁群は「北海道遺産」等に選定され、その知名度は増しており、再現した線路を利用し運行しているトロッコ列車と共に地元温泉街の重要な観光資源となっています。

また、アーチ橋梁群は鉄道とともに歩んできた上士幌町の郷土の歴史を学ぶ場にもなっており、地域における文化遺産の保全の枠を越えた広がりを見せています。



代表的なアーチ橋である第三音更川橋梁



鉄路を再現して運行しているトロッコ列車



アーチ橋を巡る遠足などを開催



旧幌加駅での鉄路の復元作業風景



保存活動10周年を記念したシンポジウム

- ◆所在地
北海道河東郡上士幌町地内
- ◆活動内容
上士幌町鉄道資料館の管理運営、会報の発行、写真コンテスト等でのPR
鉄路再現事業、アーチ橋の補修費用を募る募金活動 など
※功労者名：今尚之（北海道教育大学准教授）、櫻田 敬四郎（元国鉄職員）
- ◆活動主体及び連絡先
特定非営利活動法人ひがし大雪アーチ橋友の会（01564-2-3385）
(<http://www3.ocn.ne.jp/~arch/>)
- ◆対象となる社会資本
旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群、線路跡

